

【基本目標】2. 親育ち

【基本施策】(1) 安心して妊娠・出産ができる環境の整備

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
佐渡市特定不妊治療費助成	新潟県特定不妊治療費助成事業の助成を受けている方に、体外受精・顕微授精に要した費用の一部と、通院費の一部を助成します。	市民生活課 (健康推進室)	不妊対策について、関係機関との連携を図ります。	体外受精・顕微授精を受けている夫婦	○	今後も関係機関と連携し周知する。	周知方法について、関係機関と連携していく。	対象となる方が申請できるように関係機関と連携し周知する。	申請件数 3件 (R3.8月末現在)

【基本施策】(2) 子育て支援に関する情報提供・相談体制の充実

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
子育て支援情報の作成、配布	子育て支援情報や子育てサークルの活動紹介など、配布することにより、子育ての当事者の仲間づくりを進め、子育てに関する不安の解消を図ります。	子ども若者課 (子育て支援係)	トキッ子応援プログラムの内容修正、情報ツールを活用した情報発信を再検討。	子育て中の親	○	令和2年度中は、コロナの影響もあり、制度創設が多くあったため、検討のタイミングを逸した。	プログラムの内容について、関係課が複数にわたるため、手続きや情報受取のタイミングなど、直感的に理解できるものに変更できないか検討を行う。	ホームページ等での情報発信の強化を検討。	ホームページ内で各事業とのリンクを作成し、情報発信を行う予定。
ペアレントトレーニング (子どものパワーに負けない子育てが楽しく、楽になるペアレント・トレーニング)	子どもへの接し方を学ぶことで、子どもの問題行動を減らすとともに、親子がともに成長できるよう支援します。	子ども若者課 (子ども若者相談センター)	子どもへの接し方を学ぶことで、子どもの問題行動を減らすとともに、親子がともに成長できるよう支援します。	発達障がい児を持つ保護者 幼児版・3～5歳児の保護者学童版・小学校低学年の保護者	○	参加者の満足度は高いが、わすれてしまうことが考えられるのでフォローアップが必要。	参加人数が少ない回もありSNS等で広く周知をしていきたい。	・幼児版15回15人参加延べ73人 ・学童版16回延べ63人	幼児版5回(5人参加)延べ23人 学童版6回(3人参加)延べ18人
NPプログラム(Happyママになるための子育て講座)	子育てのスキル(能力)を高めることにより、親としての自信がつくよう支援します。	子ども若者課 (子ども若者相談センター)	子育てのスキル(能力)を高めることにより、親としての自信がつくよう支援します。	0歳～5歳の子どもを持つ親	○	講座終了後の参加者の満足度は高いが、周知をしても参加者が集まらない。日程、会場設定等について再考する。	参加者を集めるのに苦労した。しかし、参加した子育て中の親は、参加後「自己肯定感」と「活気」が高まり、日ごろの疲労回復と仲間づくりに役立ったのではないかと感じているが、集団よりも個でのスキルアップ講座の方が希望者が多いような気がした。	NPプログラム ・学童版8人×3回コース ・未就学児版8人×7回コース ・祖父母版8人×7回コース ・親支援教室8人×7回コース	NPプログラム学童版、未就学児版、祖父母版、親支援教室を計画。1回定員8名×7回。学童版コロナ感染予防のため延期した。未就学児版、祖父母版は10月から実施予定。
待っとなっちゃん 出産・子育て祝い金支給事業 子どもが元気な佐渡が島(たからじま)事業	佐渡市に住所地を持つ子ども生まれた世帯に祝い金を送り、新しい命が生まれ誕生して来てくれたことに全島を挙げて注目しお祝いをします。	子ども若者課 (子育て支援係)	生まれてきた子どもは、すべて佐渡の宝であると認識してもらい、佐渡全島を挙げて家族を支援し、家族の安心・安定、出生数の増加につなげていくことについて検討。		△	国の特別定額給付金の対象外となった新生児に対し、「新生児臨時給付金」を支給し、子育て世帯の支援を行った。	新生児臨時給付金事業は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し開始した事業だったため、引き続き出生祝い金制度の創設を検討する。	出生祝い金制度の創設	令和3年4月から事業を開始し、児童1人につき出生祝い金10万円を支給している。
子育て支援センター充実事業	佐渡市においても核家族化が進み、子育て世帯のパパママの孤立化が目立ってきています。子育て支援センターにおいて、育児についての不安や悩みを相談できる場、同年代の子どもを持つ親同士のピアサポートの場として、子育ての悩みや情報交換することにより、前向きな育児を支援します。	子ども若者課 (子ども若者相談センター)	月齢の少ない赤ちゃんとうるせを頑張っているその保護者を笑顔で向き合い、息抜きのできる場を提供します。佐渡市全体で育児をする世代を応援しているということを伝え、安心して産み育てることのできる佐渡市を目指します。	未就園児とその保護者	○	月2回専門職が子育て支援センターにいればいいというだけで、子育て中の親の安心の場になった。	子育て支援センターの活用を試行錯誤しながら実施した事業であるが、月齢の少ない赤ちゃんとうるせにとって有効であったかはまだわからないが、専門職が月2回支援センターにいればいいというだけで安心の場になった。	子育て支援センター5カ所×月2回助産師が訪問	子育て中のママたちの心の休息の場として子育て支援センターを活用する。助産師が月2回子育て支援センターに訪問し、ママたちの悩みや困りごとの相談を受けている。

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2 事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
子育て・親育ち学級	子育てを通して楽しく学び、交流を深めてもらう情報交換の場を提供します。	社会教育課	親子・子育て世代を対象とした講座・教室を開催し、子育て世代のつながりや仲間づくりの場として交流を深めてもらう。	子育て世代	○	前期4回、後期5回のプログラムを実施した。参加数61名。託児サービスを提供できた。	参加者が安心して参加できるように全プログラムを託児有とした。子育て中の親のニーズを的確にとらえる。	親子・子育て世代の不安や悩みを共有し解消できる繋がりや仕組みづくり。	内容をアンケート結果から考慮し、関係機関へ相談しプログラムを作成。前期4回、後期5回を予定し、9月よりスタートしている。

【基本施策】(3) 家庭と子育ての調和

具体的事業名	事業内容	所管	方向性または目標	事業対象	R2	評価	R2 事業実施上の課題	R3 目標	R3 事業の進捗状況
男女共同参画事業	男女共同参画意識を啓発し、男女が共に家庭や地域活動、仕事のあり方について考え直し、協力して取組めるよう推進する。	企画課	男女共同参画意識の啓発を目的とした市民向けセミナーの開催(内容: 男女の家事・育児・介護等への参加)	一般市民、主に子育て世代の夫婦がターゲット	○	①一般市民向けに、男女共同参画の意識啓発を一定程度行うことができた。(参加者23名) ②事業所アンケート調査については、男女共同参画推進懇談会において報告書の内容を審議するとともに、今後の事業所向け施策に向けて有効活用すべく、庁内推進会議にも共有を行った。	今年度のセミナーのテーマ「男性の家事・育児等への参画」は、令和元年度に実施した市民意識調査の結果を踏まえて政策的に決定したものであり、今後も継続して意識啓発に取り組む必要があるが、「イクメン・カジダンのススメ」というタイトルの影響か、セミナー参加者が男性に偏ってしまった。男女共に参加していただけるよう、次年度開催にあたっては広報の仕方を工夫する必要がある。	セミナーにより、市民意識の啓発を図る。参加者目標数 30名。	新潟県女性財団と協力し、11月6日に市民向けセミナーを実施予定。子育て世代の夫婦を対象とし、男女が協力して家庭参加することの意識啓発を行う。